

【添付資料】

TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム 第7期生紹介

※五十音順



名前：稲吉光里（いなよし ひかり）

所属：兵庫県立大学 看護学科

出身地：福岡県 久留米市

高校生の時に、フィリピンのセブ島でボランティア留学をした際に、衛生環境がよくない地域で暮らす人々を見ました。そしてそのような医療を簡単に受けることが出来ない人々へ看護を提供したいと思い、始めに国際看護に興味を持ちました。セブ島であった大きな地震の影響とその当時の状況を留学中に知り、貧困地域で災害が起きたときに一人でも多くの人をケアできる医療者になるには災害看護を学ぶ必要があると考え、今回のプログラムに参加しました。今は発展途上国や、先進国、貧困地域、災害現場など、どのような場所や環境でも的確で正しいケアが出来る医療者になりたいと考えています。このプログラムで災害看護について仲間とともに切磋琢磨し合い、学んでいきたいと思えます。



名前：岩永理奈（いわなが りな）

所属：聖路加国際大学 大学院看護研究科

出身地：福岡県 筑後市

私はおよそ2年前、福岡県大牟田市の災害ボランティア活動に参加した経験から災害看護について興味関心を持ち、本プログラムを通して、全国の看護学生とともに、災害対策について学びたいと思い参加を希望しました。近年、水害をはじめ、全国各地で各種災害が発生しています。そのため、平時から災害対策を考えておく重要性を感じており、災害対策に看護師である自分ができることを深堀りしていきたいです。また、今回の研修で得た知識や今までの経験を活用し、災害対策に関する日本の強みや問題点を明らかにして、解決策を考えたいです。そして、その知識や考えたことを活かして、災害が起こった時に求められる役割を考え、災害時対応できる力をつけていきたいです。



名前：内田彩希（うちだ さき）

所属：東北大学 医学部 保健学科 看護学専攻

出身地：埼玉県 熊谷市

学校の地域看護学実習で、災害時の地域看護について学んだことがきっかけで、災害看護について強く関心を持ちました。私は、災害に強い地域づくりには地域住民の協力や、医療従事者同士の連携が必要不可欠であると考えています。私は将来、保健師として、地域看護に携わることを志しているため、どのように地域の方々を巻き込みながら、広域的に人や医療福祉機関・施設が連携し合える、災害に対応できる地域をつくるかということについて本プログラムを通して考え、将来の地域看護活動に活かしたいと思っています。現在は、要援護者の方の避難支援と、食物アレルギーや、嚥下障害、慢性疾患がある方など、一般的な災害食を食べることができない方々の災害状況下での食事、栄養管理支援について特に興味があるため、本プログラムを通して学んでいけたらと思っています。



名前：香川美咲（かがわ みさき）

所属：県立広島大学 看護学科

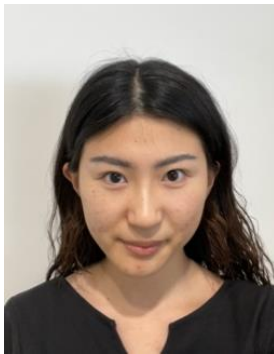
出身地：広島県 広島市

本プログラムに応募した理由は、フィールドワークや意見交換を通して、これまでに培った知識を定着させ国際助産師になるための経験やヒントが得られると感じたからです。世界では自然災害や戦争などで医療を必要としている方々があります。このような緊急性の高い場において冷静かつ迅速に対応ができるスキルや、物的・人的資源が限られた環境下での責任ある問題解決能力を学んでいきたいと思っています。また、このプログラムを通して、同じ志を持つ新たな仲間と国境を超えたつながりを持つことができると感じました。本プログラムでは、国内外の災害医療体制を学ぶ機会があり、その国の文化から生まれるニーズや価値観の違いを捉えることで、医療の多様性について考えていきたいと感じています。そして本プログラムを通して参加者と切磋琢磨しながら学修し、その学びを周囲に還元することで、ひとりでも多くの人に興味を持っていただき、災害看護の発展に尽力していきたいと考えています。



名前：佐藤陽羽（さとう ようう）
所属：慶應義塾大学 看護医療学部
出身地：ヴァージニア州 アメリカ合衆国

私は米国に滞在していた際、学校で Red Cross や UNICEF といった活動に参加していました。その中で、災害時の人々の身体的苦痛と精神的苦痛を少しでも和らげたいと考えたことから、災害看護に興味をもちはじめました。災害時の急速な対応と災害が起きてからの数か月、数年後では人々の求めるニーズが異なるのだと、活動や大学の講義を通して気がつきました。看護技術を身に着けた今、もっと自分にできることができるのではないかと考え、本プログラムに応募しました。災害看護に対する考えについて他者と意見交換し、学びを深めたいというのが私の意気込みです。また、私にしかできないことや、チームをまとめるリーダーシップ力といった自分の強みも活かしながら今回のプログラムに望んでいけたらと思います。



名前：浜口祐菜（はまぐち ゆうな）
所属：宝塚大学 看護学部 看護学科
出身地：大阪府 阪南市

東日本大震災や熊本大地震の被災地報道では、小学生ながらに自然災害の悲惨さを痛感しました。私は今まで実際に被災したことはありませんが、今後南海トラフ巨大地震が発生するといわれていて、私が住んでいる大阪では、最大 13 万人の被害が想定されています。災害発生時に看護師として自分は何ができるのか、自分の役割は何なのかを考えた事をきっかけに、このプログラムへの参加を決めました。また、プログラムの参加をきっかけにアメリカをはじめ、国境をこえた繋がりも大事にして行きたいと考えています。様々な人の様々な考えから刺激を受け、人としても、医療従事者を目指す人間としても成長していくことができるように頑張っていきたいと考えています。このプログラムで学んだことを大学で共有したいと考えています。



名前：久松遥（ひさまつ はるか）
所属：慶應義塾大学 看護医療学部
出身地：東京都 品川区

私はメンタルヘルスと公衆衛生に興味を持っています。災害看護の分野では、このどちらもが重要な要素であると思い、自分の興味分野についてさらに学ぶことができると思ったことが、本プログラムに参加したいと思ったきっかけです。本プログラムへの参加を通して、被災した方々が、日常生活を送る上で様々な制限の中で、どのようなストレスを感じ、それらがどのように対処されているのか、どのようなケアによってストレスを最小限にできるのかを学んでいきたいと考えています。また、同じ分野に興味を持っている方々と意見を交わすことで、様々な考えを融合させ、学びを深めて自身の知見を広げていけたら嬉しく思います。



名前：藤井実穂子（ふじい みほこ）
所属：東京医科歯科大学 保健衛生学科 看護学専攻
出身地：広島県 福山市

私が看護学を学ぼうと志した大きな軸の一つに、高校生の時に遭った地元での豪雨災害があります。自分の地域では大きな被害は少なかったものの、近隣の地域では被害があり、ボランティア活動に参加していました。ボランティア活動で自分の目で見て感じたこと、そこで出会った看護師さんにお話を伺ったりシャドーイングと一緒に活動したりした経験から、「将来はこうして需要と供給のバランスが大きく変化する災害という場において何か力になりたい」と強く思うようになりました。看護学を専攻して大学で学ぶ中で、看護の様々な側面に触れて関心がどんどん広がっていますが、その思いは根強く私の土台となっています。自分のこれまでの学びを統合しながら、さらに自分の中で一番関心の強い災害看護に関する知識を、このプログラムを通して深めていきたいと考えています。



名前：船島遥（ふなじま はるか）
所属：宮城大学 看護学群看護学類
出身地：宮城県 多賀城市

私は小学生の時に東日本大震災を経験しました。その時の津波の影響で祖父母の家が全壊になり、その泥だらけの家で過ごしていた祖父が体調を崩してしまいました。その際の避難所での医療スタッフのケアは、戸惑いと不安を抱えた祖父にとって、とても親切で温かく、何よりも心強いものだったと思います。帰ってきた時の祖父の安堵から出る笑顔を見て、私は災害時に活躍できる医療スタッフになりたいと考え、現在災害看護を学んでいます。私自身が被災の経験があるからこそ、震災に対する不安を理解し、被災者の気持ちに寄り添った献身的な看護ができるのではないかと感じています。このプログラムを大学一年の時に知り、ずっと興味を持ち参加を志していました。大学三年間を通して災害看護について学んだ今、このプログラムを通して災害看護について幅広い知識の中で、多角的な視野を持ち、実践的なスキルをもとにして積極的により学びを深めていきたいです。



名前：吉田理紗（よしだ りさ）
所属：聖路加国際大学 看護学部看護学科
出身地：東京都 江東区

本プログラムを志望した理由は主に2つあります。1つ目はカリキュラムの充実性です。東北、米国、神戸研修と言った様々な地域や国での異なる防災への取り組みや災害看護の発展を直接知ることができ、災害現場における看護の可能性を最大限に学ぶことができると思ったからです。2つ目は多様な人との繋がりを持つことが出来ることです。世界中で臨床経験のある医療者や災害看護の専門家、また共に学びを深め災害看護を率先していく同世代の人たちと交流を持てることに魅力を感じました。災害看護とは何か。「医療には限界があるかもしれないが、看護の力は無限大に広がっている」とは、災害現場ではどのようなことなのか。これらの事を本プログラムを通して学んでいきたいです。そして残りの大学3年間は、災害現場で通用する看護師になる為には何を準備すべきなのかを常に考えながら取り組んでいきたいと思っています。